

(4) 茨城県スギ(当年生苗)

①調査地の概況

表 5-3 3 植栽地情報(茨城県_スギ)

調 査 地		茨城県常陸太田市	
国 有 林 名		塩ノ沢入 2058 は 2	
樹 種		スギ	
		当年生苗区	2 年生苗区
造 林 情 報	苗 種	設定無し	
	面 積		
	植栽年月日		
	植 栽 本 数		
	獣 害 対 策		
	施 業 履 歴		
植 栽 地 情 報	標 高	280m	
	斜 面 方 位	SW220°	
	最大傾斜角	36°	

調査地は、地拵えが丁寧に行なわれており、作業路沿いにまとめられている。
調査区内においても、枝条や岩等はない。



写真 5-3 4 遠景写真（黄色枠が調査区）（平成 30 年度）



写真 5-3 5 調査区（平成 30 年度）

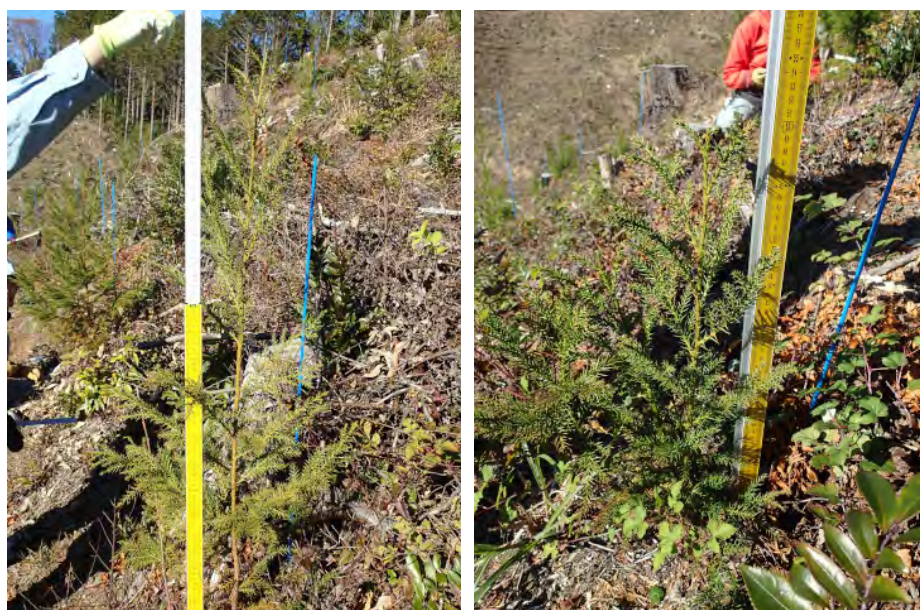


写真 5-3 6 植栽木（平成 30 年度）

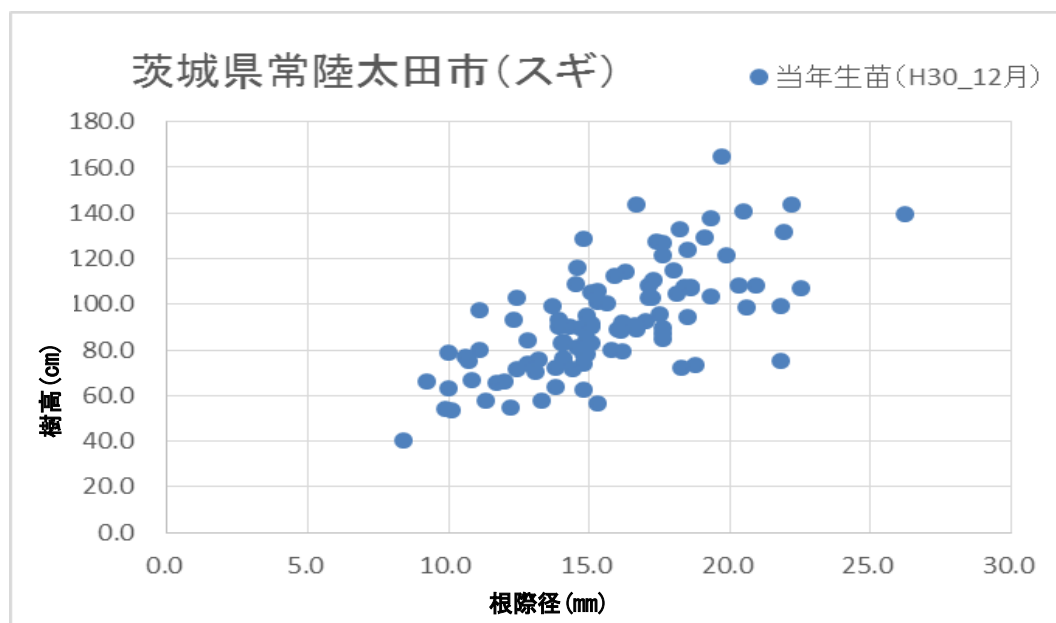
②-1 植栽木の調査結果（平成 30 年度調査）

本調査地においては、当年生苗のみの植栽がされており、2年生苗区の設定はない。
2017年4月下旬～5月上旬の植栽であることから、2成長期間を経過した状態での数値である。食害が1本、主軸枯損が8本みられた。

表 5-34 植栽木データ

調査日	平成 30 年 12 月 13 日
生育本数/調査本数	102/102 本
平均根際径 (mm)	15.7 (標準偏差 3.31)
平均樹高 (cm)	93.2 (標準偏差 23.61)
平均形状比	59.9 (標準偏差 10.99)
平均樹冠幅 (cm)	63.2 (標準偏差 13.85)

※生育本数＝調査本数－枯死・消失本数



※生存木のみのデータを使用

図 5-19 植栽木の形状

表 5-35 活着状況

生存	当年生苗 102 本
獣害	1 本（原因：ウサギ）
枯死	0 本
消失	0 本
主軸枯損	8 本

② - 2 植栽木の調査結果（令和元年度夏調査）

新たな食害等はなく旺盛に成長している（表 5-37）。

表 5-36 生育木データ

調査日	令和元年 7 月 25 日
生育本数/調査本数	102/102 本
平均根際径 (mm)	21.3 (標準偏差 4.32)
平均樹高 (cm)	114.7 (標準偏差 24.90)
平均樹冠幅 (cm)	80.1 (標準偏差 16.78)

※生育本数＝調査本数－枯死・消失本数

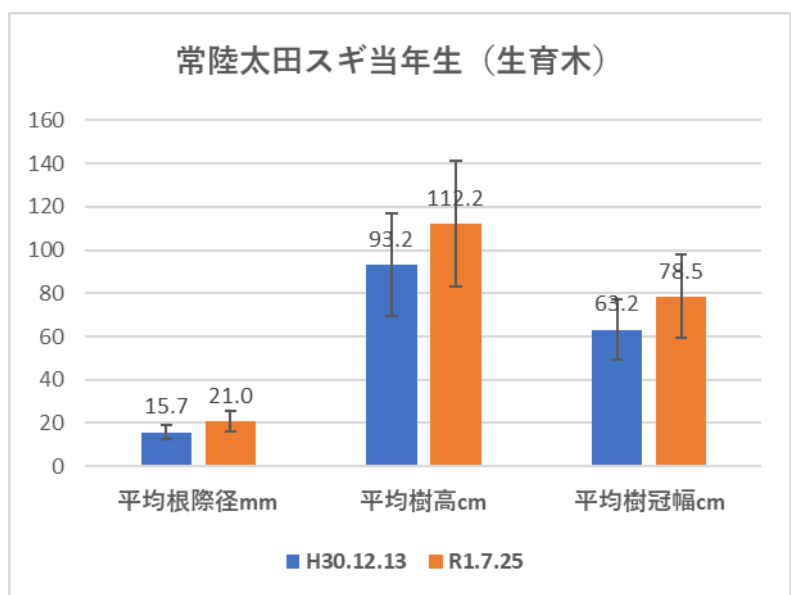


図 5-20 成長状況（生育木）

表 5-37 活着状況

生存	当年生苗 102 本
獣害	1 本（原因：ウサギ）
枯死	0 本
消失	0 本
主軸枯損	8 本

食害木等を除いた健全木で比較したものが図５－２１である。被害木が少ないため、生育木のデータと大きな差はない。

表５－３８ 健全木データ

調査日	平成30年12月13日	令和元年7月25日
健全木本数/調査本数	93/102本	93/102本
平均根際径（mm）	15.7（標準偏差2.99）	21.3（標準偏差4.32）
平均樹高（cm）	93.0（標準偏差22.76）	114.7（標準偏差24.90）
平均樹冠幅（cm）	63.0（標準偏差12.85）	80.1（標準偏差16.78）

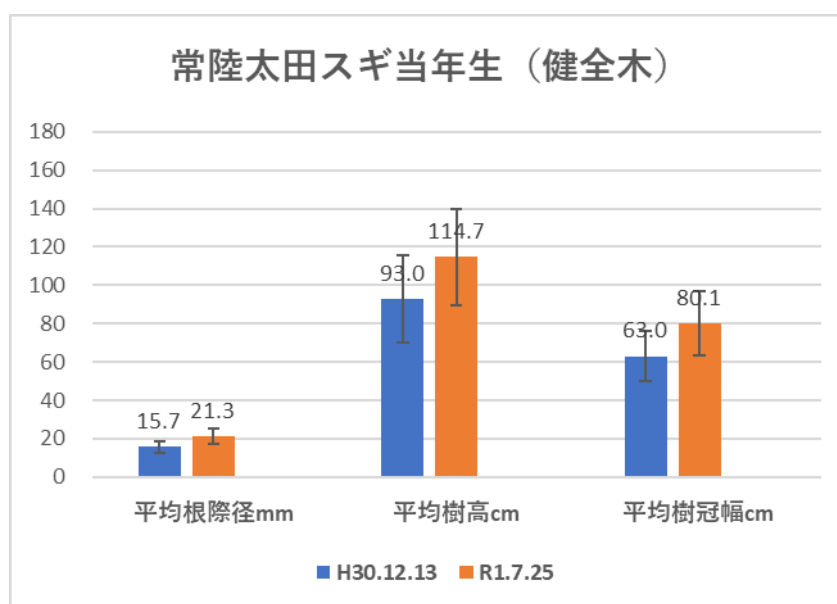


図５－２１ 成長状況（健全木）



写真５－３７ 生育状況

②-3 競合植生の状況調査結果

本調査区は、7月上旬に下刈りが実施済のため、残存植生や刈り払い木から低木層等を推測した。低木層はヒサカキ、シラカシ、クマイチゴ等が見られ、草本層はススキ、クマイチゴ等であった。ヒサカキが繁茂しており、植栽木を被圧するまで成長すると植栽木の成長に影響を及ぼす可能性がある。

■低木層（ cm～ cm）			■優占順位上位3種について5本程度		
種名	被度%	種名	高さcm	樹冠幅cm	
ヒサカキ	不明	ヒサカキ	—	—	
シラカシ					
クマイチゴ					
ムラサキシキブ					
アカメガシワ					
ヌルデ		シラカシ	—	—	
ホオノキ					
ミツバアケビ					
ヒノキ					
イヌシデ					
クサギ		クマイチゴ	—	—	
タケニグサ					
■草本層（ cm以下）		■C区分結果			
種名	被度		C1	下刈り済のため調査できず	
ススキ	不明		C2		
クマイチゴ			C3		
			C4		



写真 5-3 8 下刈り後の状況



写真 5-3 9 全生樹のヒノキやムラサキシキブが見られる



写真 5-4 0 ヒサカキに枝が被圧されている

②-4 植栽木の調査結果（令和元年度冬調査）

今季、新たに食害が1本、主軸枯損が4本みられたため、被害木は食害が2本、主軸枯損が12本となった（表5-40）。しかし、枯損木や消失木はなく植栽時の本数が維持されている。被害木を含めた成長状況は図5-22のとおりである。

表 5-39 生育木データ

調査日	令和元年 11 月 25 日
生育本数/調査本数	102/102
平均根際径 (mm)	26.8 (標準偏差 6.89)
平均樹高 (cm)	131.2 (標準偏差 29.71)
平均樹冠幅 (cm)	85.6 (標準偏差 20.23)

※生育本数＝調査本数－枯死・消失本数

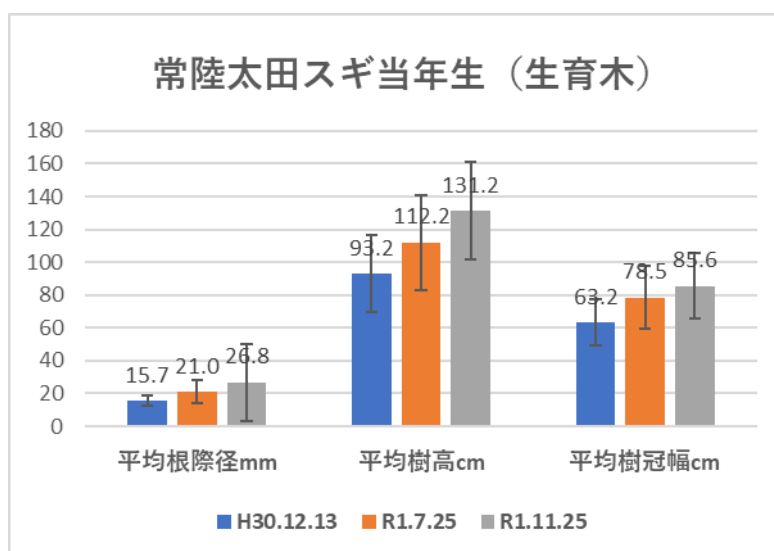


図 5-22 成長状況(生育木)

表 5-40 活着状況

生存	当年生苗 102 本
獣害	2 本（原因：ウサギ）
枯死	0 本
消失	0 本
主軸枯損	12 本（食害との重複 1 本）

食害木等の被害木を除いた健全木でみると、成長量がより大きいことがわかる（図5-23）。

表 5-41 健全木データ

調査日	平成30年12月13日	令和元年7月25日	令和元年11月25日
健全木本数/調査本数	93/102本	93/102本	89/102本
平均根際径 (mm)	15.7 (標準偏差2.99)	21.3 (標準偏差4.32)	27.3 (標準偏差6.50)
平均樹高 (cm)	93.0 (標準偏差22.76)	114.7 (標準偏差24.90)	134.4 (標準偏差25.73)
平均樹冠幅 (cm)	63.0 (標準偏差12.85)	80.1 (標準偏差16.78)	88.1 (標準偏差17.13)

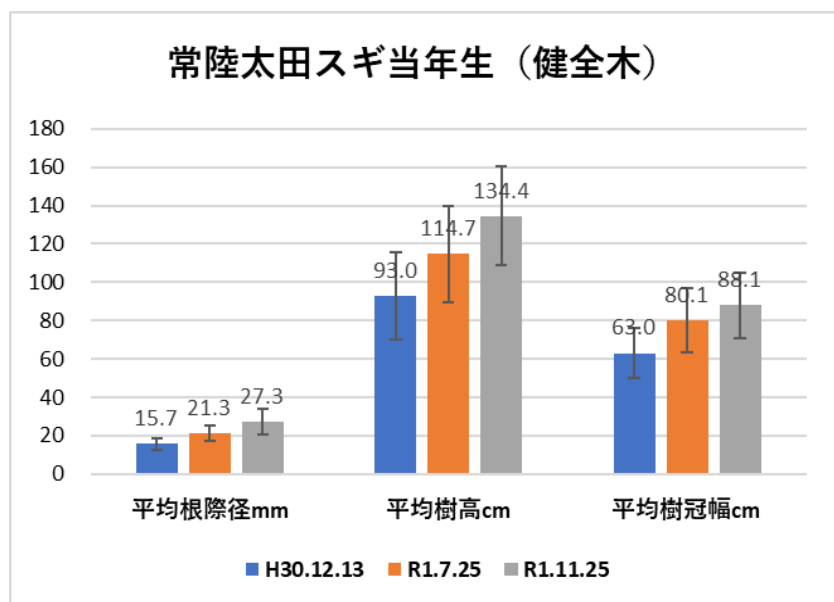


図 5-2 3 成長状況(健全木)



写真 5-4 1 生育状況（健全木）

③土壌調査結果（平成 30 年度調査）



写真 5-4 2 地表面の状態



写真 5-4 3 土壌断面

表 5-4 2 土壌断面調査結果

	層厚	土色				土壌構造	土性	石礫率 (%)	堅密度		備考
		色相	明度	彩度	土色名				指圧	硬度計	
A0層	0.5cm										
A層	0～4 cm	10YR	3	/ 3	暗褐色	粒状～団粒状	壤土	5%以下	しろう	3.4	
B層	4～15 cm	10YR	4	/ 3	褐色	堅果状	壤土	10%以下	堅	16.8	

※中山式土壌硬度計